

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

京都府

学校名

京都府立南丹高等学校

人権課題

子ども（いじめ）

対象学年・  
取り扱った教科等第1学年  
人権学習（LHR）

目標・人権教育のねらい

- ・対立が激化する要因に気づき、対立の激化を回避する方法を考え、互いを尊重してより良い関係を築こうとする態度を養う。

実施した内容

- ・ワークシートとスライド資料を用いて、対人関係の中で起こる対立を例示されたものを元に、激化しないためにどのようにコミュニケーションを取ることが大切かを考える。
- ・ワークシートに記入した感想等をまとめて生徒向け人権新聞を発行し、振り返りの機会を持つ。

工夫した点

- ・対立を激化させる要因（決めつけ、過剰な一般化、矮小化、無視、突き放し、過去の蒸し返し）を、生徒自身に整理させ、具体的な言葉を考えさせる。その際、体育祭や文化祭等の身近な取組の中で起こりそうな具体例をあげる。
- ・ワークシートに記入した感想等をまとめて生徒向け人権新聞を発行し、振り返りの機会を持つ。

他教科との  
関連

- ・全ての教科において、協働的な学習の他、日常の様々なコミュニケーションの場面に関連させることができた。

事業成果

- ・価値的・態度的側面：人権の観点から自分自身の行為に責任を負う意志や態度
- ・技能的側面：人間関係のゆがみ、ステレオタイプ、偏見、差別を見きわめる技能／能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能／対立的問題を非暴力的で、双方にとってプラスとなるように解決する技能

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

京都府

学校名

京都府立南丹高等学校

人権課題

障害者

対象学年・  
取り扱った教科等第2学年  
人権学習（LHR）

目標・人権教育のねらい

- ・ 障害のある人をめぐるさまざまな問題についての講演等を通じて、障害のある人についての理解を深める。
- ・ 自己や他者を尊重する豊かな感性を育て、また人権問題を自らの問題として捉え、解決に向けて実践する態度を育てる。

実施した内容

- ・ 地元の障害者施設長で全国身体障害者施設協議会顧問をしている方から、演題「尊びあい、ともに生きる社会について考えよう」という講演を聴く。
- ・ アイマスクを着用して誘導する体験と、誘導される体験をする。
- ・ ワークシートに記入した感想等をまとめて生徒向け人権新聞を発行し、振り返りの機会を持つ。

工夫した点

- ・ 事後学習の振り返りの機会の際には、今回は視覚障害を学んだが、様々な障害のある人が社会におられることを担任より伝え、「障害の社会モデル」について、再度考える機会を作る。

他教科との  
関連

- ・ 第2学年選択科目「生活実践」での車椅子体験授業につなげた。

事業成果

- ・ 知識的側面：人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識
- ・ 価値的・態度的側面：自他の価値を尊重しようとする意欲や態度／多様性に対する開かれた心と肯定的評価／人権侵害を受けている人々を支援しようとする意欲や態度／
- ・ 技能的側面：他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

京都府

学校名

京都府立南丹高等学校

人権課題

同和問題（部落差別）

対象学年・  
取り扱った教科等第2学年  
人権学習（LHR）

目標・人権教育のねらい

- ・現代においても未だ差別が根強く残っている問題として、同和問題を正しく認識する。
- ・将来、自分や身近な人が遭遇する可能性があるという意味で、結婚差別が身近な問題であることを理解する。
- ・偏見や差別意識に起因するものの見方にとらわれず、自分で考え行動できる力をつける。

実施した内容

- ・講義（被差別部落の歴史）を受けた後、府内の当事者の講演VTR「私の生い立ちと結婚差別」を視聴する。
- ・ワークシートに記入した感想等をまとめて生徒向け人権新聞を発行し、振り返りの機会を持つ。

工夫した点

- ・講義については、オリジナルのスライド教材を使用して、理解を図る。その際、全員にカードを持たせ、クイズ形式の質問に全員が回答する方法を取り入れ、自分が考える問題という意識を持たせるようにする。
- ・ワークシートに記入した感想等をまとめて生徒向け人権新聞を発行し、振り返りの機会を持つ。その際、「もし自分自身が人権問題に直面したらどうするか」を考えさせる。

他教科との  
関連

- ・「日本史」では、封建的身分制度、解放令、全国水平社を説明する際に関連させた。
- ・「現代社会」では、平等権についての学習に関連させた。

事業成果

- ・知識的側面：人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識
- ・価値的・態度的側面：自他の価値を尊重しようとする意欲や態度／人権侵害を受けている人々を支援しようとする意欲や態度／
- ・技能的側面：他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性／人間関係のゆがみ、ステレオタイプ、偏見、差別を見きわめる技能

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

京都府

学校名

京都府立南丹高等学校

人権課題

同和問題（就職差別）

対象学年・  
取り扱った教科等第3学年  
人権学習（LHR）

目標・人権教育のねらい

- ・就職差別の学習を通して、自他の人権を大切に生き方や社会のあり方について考えを深める。
- ・就職差別に対するこれまでの取り組みの経過を知ることによって、改善への展望を持ち、人権侵害を許さない態度の大切さを学ぶ。

実施した内容

- ・仕事や会社を選ぶに当たってどんなことを大切にしたいか考える。
- ・就職試験の目的について考えた後、模擬面接の場面を体験し、「不適切な質問」をピックアップして、どこが不適切であるのか理由を考える。
- ・近畿高等学校統一用紙制定の歴史について学ぶ。
- ・ワークシートに記入した感想等をまとめた生徒向け人権新聞を発行し、振り返りの機会を持つ。

工夫した点

- ・事後指導において、一人一人が差別を見抜き、立ち向かう人間になれるかどうか問われていることを再確認するため、人権新聞に記載された感想を元に、担任が生徒に投げかけながら振り返る。

他教科との  
関連

- ・「現代社会」において、労働者の権利と労働問題と関連させた。

事業成果

- ・知識的側面：人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識
- ・価値的・態度的側面：自他の価値を尊重しようとする意欲や態度／正義、自由、平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度／人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度
- ・技術的側面：他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

京都府

学校名

京都府立南丹高等学校

人権課題

外国人

対象学年・  
取り扱った教科等第3学年  
人権学習（LHR）目標・人権教  
育のねらい

- ・外国人をめぐるさまざまな人権問題についての講演等を通して、人権問題について理解を深める。
- ・自己や他者を尊重する豊かな感性を育て、また人権問題を自らの問題として捉え、解決に向けて実践する態度を育てる。

実施した内容

- ・「外国人の人権」をテーマにした生徒向け人権新聞で、在日韓国・朝鮮人の歴史について学ぶ。
- ・当事者を講師に招き、演題「在日コリアンの方の思いから学ぶ」という講演を聴く。
- ・ワークシートに記入した感想等をまとめて生徒向け人権新聞を発行し、振り返りの機会を持つ。

工夫した点

- ・事前の生徒向け人権新聞では、多くの韓国・朝鮮人が日本に住んでいる理由を理解させ、ヘイトスピーチの問題点について考えさせる。
- ・講演中は、集中力を高められるよう、クイズ形式の質問を取り入れてもらうことを依頼。

他教科との  
関連

- ・「現代社会」では、参政権の学習に関連させた。
- ・「政治・経済」「世界史」では、朝鮮戦争に関わる学習に関連させた。

事業成果

- ・知識的側面：人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識
- ・価値的・能動的側面：自他の価値を尊重しようとする意欲や態度／多様性に対する開かれた心と肯定的評価
- ・技能的側面：人間関係のゆがみ、ステレオタイプ、偏見、差別を見きわめる技能／他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

京都府

学校名

京都府立南丹高等学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・  
取り扱った教科等第1学年  
人権学習（LHR）

目標・人権教育のねらい

- ・インターネットやSNSの危険性について知識を深め、危険を回避する力を身に付ける。

実施した内容

- ・人権啓発ビデオ 「インターネットと人権 ～加害者にも被害者にもならないために～」（法務省）を視聴する。
- ・ワークシートに記入した感想等をまとめて生徒向け人権新聞を発行し、振り返りの機会を持つ。

工夫した点

- ・特にVTR後半で繰り返されるいじめについて、その原因と問題点を考えさせられるように、自分自身がネットで経験した事象をワークシートに記入させながら展開する。
- ・動画を一気に視聴すること、また途中で止めて解説すること、2つの展開案を提示し、クラスの状況に応じて適宜利用できるようにする。

他教科との  
関連

- ・「社会と情報」の情報モラルの単元と関連させた。

事業成果

- ・価値的・能動的側面：人権の観点から自分自身の行為に責任を負う意志や態度／社会の発達に主体的に関与しようとする意欲や態度
- ・技能的側面：人間関係のゆがみ、ステレオタイプ、偏見、差別を見きわめる技能／複数の情報源から情報を収集・吟味・分析し、公平で均衡のとれた結論に到達する技能